



わらべうた「おてぶしてぶし」に合わせて、子どもたちと遊ぶ並木みどり先生

特集

## あそびが子どもの心と体を育てる

コロナ禍でおうち時間が増えるなか、子どもとの関わり方について、さいたま市大宮区で保育コーディネーターを務めた経験のある、並木みどり先生にお話をうかがいました。

### 保育園はあそびを提供する場

あそびは「体を動かすあそび」「道具を使うあそび」「作るあそび」と大きく3つに分けることができ、また「だるまさんがころんだ」「カルタ・折り紙」「笹舟・葉っぱのお面」など、どれも昔からあるもので、保護者の皆さんも誰もが経験したあそびではないでしょうか。現代ではインターネットを用いてさまざまなあそびの情報を入手することができ、外出先でもスマホで動画が見られる時代です。そのなかで時代とともにあそびの環境が変わっていることも事実です。「情報が多すぎて何を調べればよいか迷う。家事をしたい時間についてスマホを渡してしまおう」などのさまざまな声を耳にします。日々の忙しい生活の中で子どもと一緒にあそぶ時間が取れないのも、仕方がないことかもしれません。伝承遊びやわらべ歌など、子どもたちに経験してほしいものはありますが、それを保護者の方が実践す



るとなると大変です。そこで、保育園という場所であそびの提供をすることが重要であり、私たち保育者に求められることなのです。

### 子どもにとってあそびは人生の土台でもある

子どもたちはあそびの中から多くのことを学んでいきます。しかし、必ずしも相手が親や先生とは限りません。子どもから子どもへ伝わるあそびが自然と残っていく、子どもたちが夢中になればなるほど、そのあそびは広がり、形を変えて伝わっていきます。それこそが伝承あそびなのではないでしょうか。現代では「あそべない子ども」が増えているように感じます。テレビやインターネットが与えるものは一方的な情報であり、子どもたちにとってそれは「受け身のあそび」になってしまっています。親や友だちと一緒にあそぶことで得られる「愛情・信頼・自律心・友情・集中力・自信」は、人生の土台そのものになっていきます。「相手の様子を見る」「相手に伝える」「相手の気持ちを考える」「相手と一緒に考える」など、どれも「受け身のあそび」だけでは学べないものです。こういった能力はあそびの中で培われ、しかし、目に見えて評価できるものではありません。あそぶことが子どもたちにとっての大事な学びとなるのです。

### 子どもに愛される絵本は必ず本屋さんで見つかる

あそびと同様に、絵本も子どもたちにとってとても大切なものです。情報過多の時代、どの絵本を選べばいいのか悩んでしまう人も多いでしょう。保護者の皆さんにはぜひ本屋さん足を運んでいただき、おすすめコーナーから絵本を選んでみてください。伝承あそびと同様に、子どもたちから愛されるものは自然と残っていくものです。好きになったものは本のセリフを覚えてしまうくらいに読みこむことでしょうか。これもあそびと同じです。折り紙を真剣に折ったり、ずっとコマを回していたり。子どもたちにとってあそびは学びです。私たち大人は、子どもたちが安心して自由にあそべる環境を作っていくことが必要なのではないでしょうか。



**並木みどり**  
元・さいたま市大宮区 保育コンシェルジュ。20歳から旧大宮市内の公立保育園に勤務。その後60歳まで保育園に携わり、うち14年間は園長職を務める。定年退職後、大宮区の保育コンシェルジュとしてさいたま市内の多くの保育園のサポート役として尽力する。

**取材を終えて**  
「ほいくの輪 冬号」は、コロナ自粛による親子で過ごすおうち時間が増加する中、おうちで出来る遊びの紹介が出来ればと思い特集しました。取材後に並木先生がぼつりと漏らした言葉が印象的でした。「自分が実際に子育てしていた頃を振り返ると、遊びの時間を長く取っていたわけでも遊びを教えたわけでもなく、近所のおにいちゃん・おねえちゃんに遊びを教えてもらっていたと思う」と笑いながら話してくれました。並木先生はこうも続けました。「本当に必要なものは子どもが安心して遊んでいられる場所なんじゃないかな。隣で洗濯物をしながらでも安心して遊べるそんな時間や場所なんかながが必要なのかもね」。つまり、「保育園はあそびを提供する場」では、われわれ保育者にとって子どもに遊びを提供することももちろん大事ですが、そこから発展する遊びや人間関係を温かく見守ることには保育園の役割があるのではないのでしょうか。子どもたちの数だけそれぞれの遊び方があり、変化していくものがあれば、変わらないものもあります。子どもたちの成長と共に、遊びの変化を見られるのも保育者としてのやりがいを感じる場所です。この特集を通じ、私たち保育者も改めて「子どもの遊び」の大切さを再確認したいです。(天野広行)

## コロナ禍でも必要な受診を

遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健診を  
なぜ、予防接種や乳幼児健診を遅らせないほうがよいの？  
予防接種のタイミングは、感染症にかかりやすい年齢などをもとに決められています。特に、生後2か月から予防接種を受け始めることは、お母さんからもらった免疫が減っていくときに、赤ちゃんがかかりやすい感染症(百日せき、細菌性髄膜炎など)から赤ちゃんを守るために、とても大切です。  
受診の前には、体温を測定するなど、体調に問題がないことを確認してください。(※) 家に帰ったら、赤ちゃん、保護者とも、手洗いなどの感染対策をしっかりしましょう。また、予防接種を受けた日もお風呂に入れません。  
※体調が悪いときは、感染症を周りの人に感染させるおそれがあるので、予防接種や乳幼児健診に行くことはやめましょう。元気になったら、あらためて予定を立ててください。



### 新型コロナウイルスの流行で予防接種を受けられませんか？どうすればいい？

受けそびれてしまった場合は、できるだけ早く受けましょう。新型コロナウイルス感染症による、外出自粛要請などの影響で予防接種を受けられなかった場合には、地域の事情に応じ、規定の接種期間を過ぎても接種できる場合があります。お住まいの市区町村にお問い合わせください。  
(厚生労働省「遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健康診断」の一部を引用して編集部で作成)

## 活動レポート

**春の合同遠足の中止について**  
新型コロナウイルス感染症の影響で、例年3月に予定しておりました春の合同遠足は中止とさせていただきます。楽しみにされていた皆さま、大変申し訳ありません。  
さいたま市保育園連絡会役員会にZOOM会議(インターネット会議)を導入しました。  
新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受け、役員会ではZOOM会議を導入しました。4月、5月、6月の役員会はZOOM会議によっておこなわれました。  
また緊急事態宣言後についても感染予防の観点から、7月、8月、9月の役員会は引き続きZOOM会議によっておこなわれました。

## 研修部より

**各種研修の具わせたこと**  
各種研修も開催を見送らせていただいております。開催が決まり次第、会員の皆さまには随時お知らせしてまいります。

**さいたま市保育園連絡会「第20回総会」を画面表決によっておこないました。**  
今年度の総会は画面表決によって

